

2022 年近畿支部大会

日時：2022 年 12 月 2 日

場所：オンライン開催 (Zoom)

1. 一般研究発表

1) ドローン空撮と RTK-GPS 測位による天然記念物鳥取砂丘の砂面変動の解析

岩本憲信¹・小山竜生¹・水上真望²・廣瀬匠哉¹・
劉 佳啓³・木村玲二³・高山 成¹

(¹大阪工大・工, ²大阪工大・工, ³鳥取大・乾地研)

天然記念物鳥取砂丘において砂丘地形のダイナミズムを把握することを目的として、2022 年 7 月と 10 月に空撮測量用ドローン Phantom4-RTK を使った空撮を実施した。RTK-GPS を導入することにより、GNSS 単独測位では誤差が大きかった海拔高度の空撮測量についても、より高い精度の測量成果を得ることができた。第三砂丘列の後背に形成された窪地地形「追後スリバチ」では、斜面上部が削られる一方、窪地から保安林付近にかけて堆砂が進んでおり、スリバチが縮小傾向にあることが裏付けられた。

2) 古典籍を用いた東北地方における独立峰の初冠雪日に関する気候解析

藤井秀太・青野靖之
(大阪公立大院・農)

東北地方の岩木山と鳥海山における初冠雪日の変動を解析した。初冠雪のデータを古典籍などから収集する一方、現代の初冠雪日と高層気温とで相関分析した。岩木山については弘前藩庁日記や官報などから 277 年分、鳥海山については 119 年分収集できた。岩木山では観望地が山体に近い弘前市の場合に初冠雪日と気温との高い相関が確かめられた。古典籍と同じ弘前からの観測データを用いて気温との相関分析を進めると、強いラ・ニーニャがよく起きる、太陽活動の弱い年(相対黒点数 130 以下)に解析を限定したときに 9-10 月年平均気温(850 hPa)との相関が最も高くなった。観望地にほとんど変化のなかった鳥海山も同様の解析結果を得た。

2. 合同シンポジウム(生態工学会関西支部と共催)

1) 建築物緑化における気象環境対応技術について

山田宏之(大阪公立大院・農)

2) 大阪公立大学 植物工場研究センター 企業コンソーシアム 最適化空調システムプロジェクトの取り組み紹介
—工学系と農学系の融合した大阪公立大ならではの取り組み—

2.1) プロジェクトの紹介

坂 幸憲(株式会社 CKD)

2.2) 植物工場用のアオジソ品種育成に向けた取り組み

山口 夕(大阪公立大院・農)

2.3) 植物の環境因子に対する生理応答評価と現場測定に基づく生育モデルの構築

木下進一(大阪公立大院・工)

3. 総会(メールによる報告・審議)

1) 2021 年度事業報告, 2022 年度事業経過報告

2) 2021 年度会計決算報告, 同監査報告

3) 2022 年度会計経過報告, 2023 年度予算案審議